

赤い羽根共同募金運動はじまる

つなげよう みんなの笑顔 この羽根で

10月1日～12月31日

赤い羽根共同募金は、民間の社会福祉事業を支援するため「社会福祉法」に位置づけられ、毎年10月1日から12月31日までの間、全国一斉に展開されています。

この募金は、市内の全小・中学校での児童・生徒への福祉教育などの取り組みや各地域の福祉会、障がい児・者への福祉事業に使われています。今年もみなさんのご理解とご協力をお願いします。



「くりえいとまつり」での街頭募金

たすけあいの心

日本で共同募金運動が始まって70年以上が過ぎました。この間、社会経済状況も急激な変化をみせ、人々の生活も意識も変わってきました。共同募金は、人々がともに生きていこうという「たす

けあい」の心に支えられ、人々の幸せを願ってともに歩んできました。

平成30年度の募金実績額は、114,9万6,089円

自治会や町内会など地域住民のみなさんの協力を得て各世帯にお願いする「戸別募金」をはじめ、市役所、学校、福祉団体を対象にクオカードなどの資料を活用する職域募金、学校や病院、公共施設、事業所などでの募金箱による募金などいろいろな方法でお願いしています。

平成30年度、みなさんのご協力で114,9万6,089円の募金が集まりました。ありがとうございます。

令和元年度募金の使いみち

昨年度に宗像市で集まった募金は、全て福岡県共同募金会へ送金し、配分委員会などの審査の後、市社会福祉協議会を含む各申請団体に配分されました。昨年度に



184号

令和元年10月1日
発行
社会福祉法人
宗像市社会福祉協議会
〒811-3437 宗像市久原180
メイトム宗像2階
TEL 0940-37-1300

集まった募金は「令和元年度共同募金の使いみち(表1)」のように有効に活用されています。共同募金は、募金をした地域で生きる寄付金です。

令和元年度の募金目標額

共同募金は、募金が集まってから使いみちを決める募金ではありません。事前に地域福祉のための使いみちの計画を立てます。この使いみちの計画に必要な額が「目標額」になります。

今年度の目標額は、昨年度実績と同額の114万9千6089円です。今後も安定、継続して地域福祉事業を行うための「目標額」です。

一世帯7000円の目安額

市全体の目標額を達成するために、「一世帯ではどれだけの金額を協力したらいいのか」ということが分かりにくいいため、「一世帯7000円を目安に協力していただく

と、計画されている事業が実施できます」と目安額をお知らせすることにしています。この目安額を示すことが強制と受け取られがちですが、決してそうではありません。募金目標額を達成するためにお願いする「目安」ですので、みなさんのできる範囲内でのご協力をお願いします。

多くの人に支えられている共同募金

「共同募金実績額内訳(表2)」をみると、戸別募金(各世帯からの募金)が共同募金全体の約9割を占め、市内の多くの世帯からの募金に支えられています。

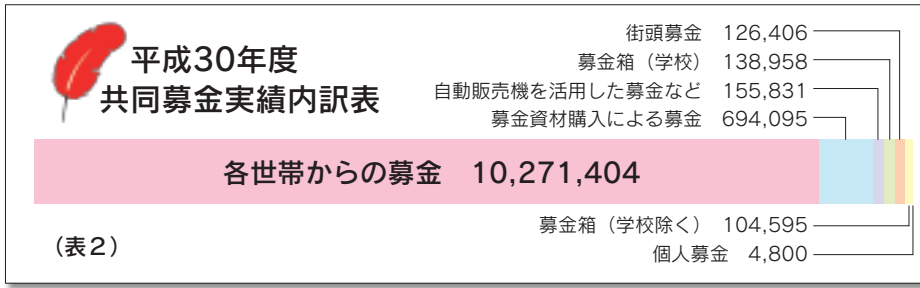
また、地域のいろいろな場面で、自治会長や組長、事業所や公共施設、福祉団体、学校の先生や児童、生徒のみなさんからの多くの支えで成り立っています。

ひとりひとりのたすけあいの心が、地域福祉活動に活用され、より住みよい地域をつくっていく原動力となります。みなさんのご理解とご協力をお願いします。

災害等準備金の積み立て

県共同募金会では毎

年、県内のための災害等準備金を積み立てています。近年は災害も多く発生し、災害ボランティアセンターが開設される機会も増えています。この際に、災害等準備金が活用され、災害ボランティアセンターの運営を支えました。毎年、みなさんからご協力いただいている赤い羽根共同募金が災害ボランティア活動も支えています。



令和元年度共同募金の主な使いみち (表1)

昨年度集まった、みなさんからの募金は下記のような活動に活用されています。赤い羽根共同募金は、みなさまのあたたかな気持ちを、具体的な活動につなげていく、「じぶんの町を良くするしくみ」です。これからもご理解とご協力をお願いいたします。

項目	金額
高齢者の福祉に ●在宅介護者の会の支援 ●民生委員児童委員協議会への助成金 ●配食サービスボランティアの支援 ●シニアクラブ連合会への助成金	1,201,000円
障がい児・者の福祉に ●身体障害者福祉協会の支援 ●あじさいの会への助成金 ●手話講習会への助成金 ●あゆみの会への助成金 ●声の広報配布事業の支援 ●要約筆記ボランティアの支援 ●おもちゃ図書館運営の支援 ●宗像コスモス会への助成金	2,123,000円
ボランティア活動に ●福祉ボランティア活動連絡協議会活動の支援 ●大島地区ボランティア団体への助成金	534,000円
福祉会活動の支援に ●地域住民の自主的な地域福祉活動	2,637,000円
児童・青少年の福祉に ●市内幼稚園、保育園、小中学校、高校への福祉教育推進事業 ●小学校での車いす体験や手話体験などの福祉教育事業	816,000円
子育て支援活動に ●地域福祉文庫連絡協議会の支援 ●NPO法人むなかた子育てネットワークこねっとへの助成金 ●母子寡婦福祉会の支援	545,000円

その他、県内の福祉施設への支援、災害ボランティア活動、福祉に関する情報提供や啓発活動などに活用されています。

『NPO法人 むなかた子育てネットワークこねっと』は子育てサークルや子育て支援団体が集まり、平成13年度より活動し、平成17年度より『宗像市子育て支援センターふらこっこ』を市と協働で15人のスタッフで運営しています。共同募金の分配金を活用し「子育て支援のポイント」「親子への対応」「わらべうた」「手作りおもちゃ」など年4回講師を招いてスタッフ研修をしています。子育てと同様に子育て支援にも正解がない中、親子の日常につながる支援を目指し、適切な対応ができるよう日々研さんを積んでいます。ふらこっこ交流室の「スポットタイム」では「手作りおもちゃ」を活用した親子遊びも好評で、子どもたちは目を輝かせて参加してくれます。このような研修ができるのも共同募金の分配金をいただいたおかげだと感謝しています。今後も子育てを一緒に考え支えあい、親子に寄り添った支援を続けていきます。



赤い羽根共同募金・配分団体紹介
NPO法人 むなかた子育てネットワークこねっと
「子どもの笑顔の輪をひろげよう」



認知症本人と介護者によるサロン開催

認知症のある人とその家族のみなさんが初めて企画した「認知症当事者およびその家族（介護者）」のサロンです。当日は、音楽療法のコーナーもあります。詳細は、市社協まで。

- 日 時／10月19日(土) 14:00から16:00まで
- 会 場／メイトム宗像1階 結工房
- 参加対象／認知症当事者およびその家族（介護者）
- 参加費／ひとり¥100（茶菓子代、保険代）



問い合わせ
市社会福祉協議会 ☎(37)1300

RUN伴+2019 宗像エリア 11/3 開催!

RUN伴(ランとも)とは、認知症になっても安心して暮らしていける街をめざして、認知症の人と共にタスキをつないでいくリレーイベントです。今年度も「子どもまつり」と同日に開催し、ユリックス館内をパレードします。

みなさんの参加協力をお願いします。



- 日 時／11月3日(日・祝)13:30頃
(雨天の場合変更あり)
- 集合場所／ユリックスイベントホール内
市社会福祉協議会ブース付近
- 参加費／ひとり¥130（保険代込）
- 参加対象／どなたでもOK
- その他／可能であれば、当日はオレンジ色の物を持参してください。
- 申し込み・問い合わせ先／
市社会福祉協議会 ☎(37)1300



オレンジカフェの日程

どなたでも参加できます。認知症に関する相談も受けます。①②は申し込み不要。

- ①●日 時／10月1日(火) 10:00から12:00まで
- 会 場／メイトム宗像1階 結工房
- 参加費／ひとり¥200
- ②●日 時／11月7日(木) 10:00～正午
- 会 場／城西ヶ丘区公民館（城西ヶ丘4丁目21-1）
- 参加費／ひとり¥100
- ③●日 時／11月9日(土) 14:00～16:00
- 会 場／蜂須賀病院2階食堂（野坂2650）
- 参加費／ひとり¥100
- 申込方法／蜂須賀病院に電話で申し込む(平日9時～17時の間受付)
- 申し込み・問い合わせ先／蜂須賀病院(担当:中村) ☎(36)3959

認知症本人と介護者の歓談会

メイトム宗像内で歓談会「それでいい!」を実施中。本人家族のみなさんが集まって、思い思いに話をするさくばらんな集まりです。開催日時など詳細は、市社協まで。

- 今後の予定 10月18日(金)13:30～
11月15日(金)13:30～

“本ってほんとにおもしろい”

～本をとおして子どもとふれあおう～

市社会福祉協議会と地域福祉文庫連絡協議会では、ひとりでも多くの子どもたちに本との出会いの機会をつくる活動をしています。

本のおもしろさや大切さのお話を聞いて、子育てのヒントにしてみませんか？

- 日 時 10月28日(月)10:00～12:00（受付9:30から）
- 講師 **鈴木 研** さん
《プロフィール》
九州女子大学・福岡女子短期大学非常勤講師、日本子どもの本研究会理事、福岡県学校図書館協議会参与、こぐま文庫
- 内容 “本ってほんとにおもしろい”
～本をとおして子どもとふれあおう～
- 対象 子育てに関心のある人や本に関心のある人など、どなたでも参加できます。
- 主催 市社会福祉協議会・宗像市地域福祉文庫連絡協議会
《くまの子文庫・自由ヶ丘文庫・おいでおいで文庫・仲よし文庫》
- 会場 **メイトム宗像 202会議室**
- 定員 先着50人
- 申込 10月23日(水)までに、裏面の講演会申込書にご記入のうえFAXまたは郵送で申し込んでください。
- 参加費 無料
- 託児あり **5カ月以上から（先着15人まで）**
※託児は、10月11日(金)までに申し込んでください。
- 申し込み・問い合わせ先
〒811-3437 宗像市久原180番地 市社会福祉協議会（篠原）
☎(37)1300 FAX(37)1393



『在宅介護者1泊リフレッシュセミナー』 参加者募集

市内在住で、在宅介護をしている人を対象に「在宅介護者1泊リフレッシュセミナー」を開催します。このセミナーは、在宅介護をしている人の「こころ」と「からだ」のリフレッシュを目的に実施しています。今回の行先は、熊本県天草市です。あなたも介護の手を休めて、同じ介護者との楽しいひと時を一緒に過ごしてみませんか。

- 主催 市、市社会福祉協議会
- 日程 10月29日(火)～10月30日(水)
- 対象 市内在住で、在宅介護をしている人
- 行先 熊本県天草市(予定)
- 参加費 1人5,000円
- 募集人員 25人(応募多数の場合、抽選)
- 申込方法 10月9日(水)までに、市社会福祉協議会あてに「氏名」「年齢」「住所」「電話番号」「介護をしている人の氏名」をファックスまたは郵送で申し込む



県民介護講座 認知症について考えるつどい (認知症サポーター養成講座)のお知らせ

- 日時 10月11日(金)13:30～16:10まで
- 場所 クローバープラザ1階
クローバーホール
(春日市原町3-1-7)
- 内容
講座／認知症サポーター養成講座
「認知症を学び地域で支えよう」
講演／「認知症介護のアンガーマネジメントについて」
講師／日本アンガーマネジメント協会 澤田 慎一郎 さん
- 参加費 無料
- 申し込み・問い合わせ先
福岡県社会福祉協議会（介護実習課） ☎092(584)3351



学ぶ・集う・みんなのご飯

寺子屋子ども食堂ボランティア体験 ボランティア入門講座

令和元年11月24日(日)9:30~14:00

In 自由ヶ丘地区コミュニティセンター

定員先着 20人
参加者募集中

参加費 500円
(昼食・保険・資料代として)

持参品 エプロン・三角巾・スリッパ・ハンカチ
飲み物・筆記用具・参加費

ボランティアをはじめたい、ボランティアってどんな仕事？寺子屋子ども食堂のボランティアさんに活動の話聞いてみたい！など、ボランティアに興味のある人の参加をお待ちしています。男性の参加も大歓迎です！

申込み・問い合わせ 市ボランティアセンター
11月15日(金)までに「講座名」「名前」「住所」「年代」「連絡先」をお知らせください。
ワケルフォームから5も簡単に申し込みできます。



受付 9:15~ 9:30~ 開講式 自由ヶ丘地区コミュニティセンター

9:35~9:50 **学習1** ボランティアについて
ボランティアのいろはを学びます。宗像で活躍する団体紹介もあり、希望者は後日ボランティアセンターへ登録もできます。

9:50~10:10 **学習2** 寺子屋子ども食堂について
講師：母話クラブ KANA 文庫 さちさん
寺子屋子ども食堂について、活動中の心構え、ボランティアをはじめたきっかけなどの話から、ボランティアの意義と目指す姿勢について学びます。

10:15~11:30 **調理体験** KANA 特製 ハヤシライスづくり
体験学習として、寺子屋子ども食堂をオープンする準備と特製のハヤシライスづくりを体験します。

11:30~ **スタッフ体験** 寺子屋子ども食堂 オープン！！
ボランティアスタッフとして実際に子どもたちと触れ合い、地域の人との関わりを通じてボランティア活動の喜び・楽しさに触れます。
*昼食・休憩タイムあり

13:45~ 閉講式 解散 14:00

*食堂オープンまでの講座中、別室で待機できるお子さんと一緒にの参加も大丈夫です、お知らせ下さい。

ボランティアセンター通信

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
ホームページ <http://syakyo.munakata.com/volunteer/>
メールアドレス v-net@syakyo.munakata.com

夏休みに出会い・気づき・学ぶ ジュニアボランティアスクール2019報告

子ども福祉員「バンビ」「ピッコラ」が誕生しました!



高齢者疑似体験では身体の変化・心の変化を体験

8月7日(水)から9日(金)
3日間のピッコラコースでは
小学4年生から6年生までの
20人が参加しました

このスクールでは、特に高齢者や認知症のある人が安心して暮らすことができるまちになるために、自分たちにこれからできる事を考えました。

1日目は、高齢者について体験を通じ理解を深め、認知症サポーター養成講座を受講しました。

2日目にはフィールドワークに出かけ、まちづくりと環境保全について学習しました。

最終日には初日に学んだ事、フィールドワークで制作したハガキを持って、老人ホームを訪問しました。書道を教えるボランティアの体験交流会を終えた参加者からは、「これからも高齢の人、認知症の人に対する活動に参加してみたい」との声がたくさんあがりました。この3日間のスクールで学んだ事をいかし、子ども福祉員としての今後に期待しています。



交流会では書道を教えるボランティアを体験



福岡県警本部ではまちを見守る通信指令室、交通管制センターを見学

スクール内容

- 8月7日 ●開講式、高齢者学習（高齢者疑似体験・車いす体験）、認知症に関する学習
- 8月8日 ●福岡県警本部、臨海3Rステーションにて学習
- 8月9日 ●老人ホームへ訪問（ボランティア体験交流会）、新聞づくり、修了式



子ども福祉員ピッコラです!

親子で学ぶ夏休み
8月25日(日)バンビコース
小学1年生から3年生までの
9人+保護者
環境保全について学びました!

小学校低学年を対象にしたバンビコースでは北九州市環境ミュージアムを訪ね、エコハウスの見学、海や大気の汚染状況、資源ゴミのリサイクル方法を、クイズを解きながら楽しく学びました。リサイクル活動は、日ごろの生活で取り組みやすい活動です。

ボランティアの環境学習サポーター指導によるゴミを減らす工作体験に参加者は熱心に取り組みました。



子ども福祉員バンビ誕生!

- 施設で体験して、心に残っていること**
- ペットボトルがTシャツにかわるのが心にのこりました
 - エコハウスにはいってべんきょうをした
 - 水のじっけんがたのしかった
 - ごみをへらすこうさく
 - クイズをしたのがたのしかった
 - ボランティアさんとのたいけん
- スクールを終えてこれからがんばりたいこと**
- かんきょうをきれいにしていきたいです
 - ごみをさいりょう(リサイクル)する
 - なるべくゴミをふやさないようにする



北九州エコハウスではCO₂(二酸化炭素)削減の取り組みについて学びました



組み合わせたペットボトルで渦の発生実験

※バンビ「bambi」[bambino(子ども)を省略したと思われる]、ピッコラ「piccola」【小さい】ともにイタリア語が由来。

社協だよりは、偶数月の1日号です(年間6回)

社会福祉法人 **宗像市社会福祉協議会**

宗像市久原1800番地メイトム宗像内 ☎(37) 13000
大島支所 宗像市大島1809番地32ふれ愛センター内 ☎(72) 2294
ホームページ <http://syakyo.munakata.com/> メール info@syakyo.munakata.com

本会は、むなかつたウツプレスを音にして届ける「声の広報」活動を実施しています

寄付
ありがとうございます

【香典返し】(敬称略)

- ・(故)永野正俊 (池田)
- ・(故)越水和子(自由ヶ丘)
- ・(故)中村園子 (野坂)
- ・(故)松井大治 (田久)
- ・(故)石松昭三 (吉留)
- ・(故)吉田シゲ子(大井)
- ・(故)永島正 (神湊)
- ・(故)古城戸ヒロ子(朝野)
- ・(故)柴村孝子 (東郷)
- ・(故)豊福貞子 (江口)
- ・(故)木村靖平 (大島)
- ・(故)石坂啓子(自由ヶ丘南)
- ・(故)岡田壽代子(鐘崎)

(令和元年8月31日受付分まで)

市社会福祉協議会では、随時寄付を受け付けています。地域福祉の推進のために、ご協力をよろしくお願いいたします。